

2023 年度 安全計画

しなの鉄道株式会社

2023 年度 目標

「お客さま、社員、協力会社社員の死傷事故 0」
「運転事故、インシデント 0」

項目	目標	項目	目標
お客さま、社員、協力会社社員の死亡事故	0件	運 列車事故（衝突・脱線等）	0件
		転 人身障害事故	0件
		事 踏切障害事故	0件
お客さま、社員、協力会社社員の傷害事故	0件	故 鉄道物損事故	0件
		インシデント	0件

安全方針及び安全に係る行動規範

安全方針

1. 私たちは、安全は事業の根幹であるとの信念のもと、お客さまの安全を最優先します。
2. 私たちは、安全に関する法令及び規程を遵守し、全社員一丸となって安全の確保に取り組めます。
3. 私たちは、PDCAを確実に実施し、継続的な改善見直しを行ない、常に安全性の向上に努めます。
4. 私たちは、安全で安定した輸送を変わらぬ使命とし、お客さまに信頼され、地域に愛されるしなの鉄道を目指して挑戦します。

安全に係る行動規範

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努める
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する
3. 常に輸送の安全に関する状況を把握し、理解するよう努める
4. 職務の遂行に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いを行う
5. 事故・災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる
6. 情報は漏れなく、迅速、正確に伝達し、透明性を確保する
7. 常に問題意識を持ち、改革に果敢に挑戦する

1. 安全マネジメント体制の充実・強化

全社員が安全方針を理解し、いかなる場合も安全確保のために「ルールの中で自ら考え、自ら行動する風土」を創りあげていきます。

経営トップ、役員及び各安全管理者※は「三現主義」に徹し、社員間のコミュニケーションを深め、現場社員、協力会社社員と一体となって、安全のP D C A(継続的な改善見直し)を確実に実施して安全の確保に取り組みます。

《具体的取り組み》

- (1) 社員説明会、現場巡回、職場内教育等で、安全方針の意味（安全最優先の原則・規程の順守・継続的改善）の理解度と実行力の向上を図ります。
- (2) 役員による現場安全総点検及び各安全管理者※による現場巡回と安全座談会を実施します。
- (3) S R 1系車両について継続的に知識を深めます。
- (4) マネジメントレビュー、内部監査で安全マネジメントが有効に機能しているかを確認します。
- (5) 安全推進委員会で、各機関の運転・傷害事故防止実施計画の振り返りを実施し安全のP D C Aをより確実なものにします。
- (6) 職場管理者に対して「運輸安全マネジメント制度」についての教育を継続します。
- (7) 協力会社も参加した安全大会の開催や学習会を行います。
- (8) 好事例の表彰および社内への水平展開を図ります。
- (9) 「うまくいっていること」にも着目した事故防止方法を学びます。
- (10) 多様化するシニア層の雇用形態に合わせた、業務内容・管理体制を確立します。

※各安全管理者とは、弊社安全管理規程に定められた、安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者、施設管理者、車両管理者、経営管理者を言います。

2. 安全を理解し、安全に対する感性を磨く

事故の悲惨さ、事故の恐ろしさを自分の事として学び、安全の重要性を理解し、安全の確保のための具体的行動につなげ、安全に対する感性を磨いていきます。

事故を未然に防ぐための危険を予知する「気づく力」、そして予知した危険を取り除くための「考える力」を醸成していきます。

安全は命を守ること。安定は列車を正確に運行させること。鉄道にとってはどちらも重要なことですが、安定を重視するあまり安全が疎かになり、人命が脅かされることになりかねません。安全確保のために「危ないと感じたら迷わず列車を止める」「発生事象やイレギュラー事象は正しく・速やかに報告する」をすべての社員に徹底します。

《具体的取り組み》

- (1) 安全推進委員会、安全大会、訓練会、勉強会等で、過去の事故、他山の石等の資料やビデオ教材の活用と「一人ひとりが安全の主役となる」機会を設け、「事故の悲惨さ、恐ろしさ」を自分の事として考えられるよう展開します。

- (2) 「現地を見る、体験する、イメージして考える。」の取り組みを実施すると共に、自職場の訓練や取り組みだけでなく、他職場の取り組みや訓練を見学・体験することにより、予兆感性、危険予知能力を磨き事故の未然防止に努めます。また参加社員は自職場の社員に伝える役割があるため、社員が自分の言葉で周りの社員に伝える取り組みを行います。
- (3) ヒヤリ・ハットを自分だけでなく、会社全体の宝と捉え、進んで提出、共有する取り組みを行います。またリスクが高いヒヤリ・ハットについては、引き続き会社全体で共有し、効果的な対策を検討した上で水平展開します。
- (4) 規程やルールを守ったうえで、更に工夫をして「うまくいった事例」「グッドプラクティス」についても水平展開します。
- (5) 自職場に潜む危険を洗い出し、ひとつひとつ危険を取り除いていきます。
- (6) 列車を止める手段、止めるべき状況等の教育を過去の事象等を活用し実施します。また、些細なことでも速やかで正しい報告ができる文化を醸成します。

3. 部内原因による事故・事象の撲滅と外的要因によるリスクの低減

当社及び協力会社の原因(部内原因)による事故・事象及び繰り返し発生している事故・事象は、徹底的に原因を究明し、有効な対策を立て、確実に実行するとともに、一定時間が経過後その有効性を確認します。また設備、教育・訓練、ルールの見直し等あらゆる手段を活用しながら撲滅します。

ちょっとした気の緩み、慢心によるルール違反等が重大事故につながり人命を脅かすこととなります。「ルールの成り立ち」を学び「ルールを守る」ことの重要性の理解と確実な実行を徹底します。

緊急事態や自然災害等(外的要因)への対応力と危機管理能力を向上します。また、感染症に対しても基本となる対策をとります。

《具体的取り組み》

- (1) 助役・係長などに、ヒューマンエラーの原因究明のための調査や分析法の教育を実施します。
- (2) 安全推進委員会で、出席者全員で議論し徹底的な原因究明と再発防止策及び未然防止策を策定するとともに、一定時間経過後の事故当事者のフォローの状況及び対策の有効性を確認します。
- (3) 役員、各安全管理者、現場管理者が作業実態とルールの乖離を確認し、乖離があった場合は、その乖離を見直します。また、全社員が法令や規定に基づく業務を行っているか相互診断を行い、コンプライアンス意識の向上に努めます。
- (4) ルールや作業手順等の「成り立ち、本質(なぜ、そうなっているのか、なぜ、行うのか)」を理解させる教育を実施します。
- (5) 「安全のABC※キャンペーン」や、自職場の「これだけは絶対にやってはいけないこと」の理由を学び、決められたルールを厳守します。
- (6) 机上による教育・訓練だけでなく、JR長野総合訓練センターでの運転シミュレータを使用しての乗務員訓練、駅に設置されている補助制御盤を使用しての駅社員訓練、保守用車や架線などを用いた技術社員の訓練、全システムによる現車を使用した、各現場が必要な訓練を、自主性を持って実施します。
- (7) 人手不足などにより仕事の仕組みが大きく変わっていく環境下では、より一層安全に関する知識・指導力・技術力を持った社員育成が重要です。今年度より各駅の補助制御盤や特殊取扱いを行う、

専任チームを立ち上げ駅運転部門の安全を確保します。

- (8) 現場社員からの現場状況報告、気象情報会社等からの自然災害情報等の積極的な収集と正確な状況把握を行い、関係箇所と連携及び情報共有を行い、迅速かつ適切に対応し、外的要因によるリスクを低減します。
- (9) 設備等の計画的な点検・整備・処置を行います。
- (10) 県、市町村、警察、消防、JR等と連携した各種訓練や協力体制を通じて、列車内や駅における緊急事態などの異常時対応能力を養います。
- (11) 災害対策本部等の設置、安否確認、緊急招集、避難誘導等の訓練を通じて自然災害等（外的要因）に対する全社的なリスク管理能力を高めます。また社員が安全最優先に行動できる育成の場としても活用します。
- (12) 異常時における列車の遅れ等の運行状況は、報道機関、沿線自治体、学校等関係機関と連携し、メール配信システム等により的確、迅速かつタイムリーな情報を提供します。
- (13) 安心して駅や列車をご利用いただくために、「鉄軌道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」に基づき、感染防止対策をとります。

※安全のABCとは、A=当たり前のことを、B=ばかにしないで、C=ちゃんとやるの意味。

4. 計画的な施設・設備の維持更新

列車の運行に必要な各種設備の劣化が進んでいます。検査修繕を確実に行うとともに、鉄路の維持を最優先に掲げ中長期の視点に立った設備整備計画を策定し、安全を維持した上で設備のスリム化を引き続き進めます。また発注側・請負側ともに技術職者が減少している時代に対応するため各種工事の改善を模索し、実施に繋がります。

《具体的取り組み》

- (1) 国、県、沿線自治体などのご支援をいただきながら、計画的な車両更新を進めます。
- (2) ご理解をいただきながら、レール交換等の夜間に行っていた工事の日中帯実施を目指します。

《安全設備整備計画》

- (1) 設備投資 (単位：百万円)

総額	内 訳	
	設備関係	車両関係
1,783	525	1,258

主な件名

《線路・電気・設備》

- ・レール交換・木マクラギのPCマクラギ化、PCマクラギパンドロール化等 《122》
- ・電車線支持物建替、指令機器室無停電電源装置更新、融雪器更新等 《99》
- ・電子連動装置更新、踏切支障報知新設、踏切保安装置改良等 《226》

《車両》

- ・車両更新 《1,258》

(2) 検査修繕

(単位：百万円)

総 額	内 訳	
	設備関係	車両関係
1, 0 2 1	7 5 9	2 6 2

- ・線 路・・・線路及び土木構造物（橋梁等）の検査修繕
- ・電 気・・・電力及び信号通信設備の検査修繕
- ・車 両・・・各種検査（全般検査、重要部検査等）修繕